

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	広島大学	整理番号	a024
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際協力学を拓く実践的研究者育成の試み		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) その他人社系分野を主とする複合分野		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (国際協力学、国際開発学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 国際協力研究科開発科学専攻〔博士前期課程〕 国際協力研究科開発科学専攻〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 齊藤 公男	
	(その他関連する研究科・専攻名) 国際協力研究科教育文化専攻〔博士前期課程〕 国際協力研究科教育文化専攻〔博士後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>広島大学は、広島高等師範学校(明治7年創立)や広島文理科大学等を母体として、昭和24年に新制国立大学として設立され、今日では10学部、11研究科及び多くの学内共同教育研究施設を擁する総合大学となっている。建学の精神「自由で平和な一つの大学」を継続的に発展させるため、①平和を希求する精神、②新たなる知の創造、③豊かな人間性を培う教育、④地域社会・国際社会との共存、⑤絶えざる自己変革、の理念5原則を策定し、「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」の実現を目指している。</p> <p>このような理念を実現するため、国際化を一つの柱ととらえており、平成15年に「広島大学の国際化戦略」を策定し、国際的なネットワークを構築してきた。例えば、平成16年には北京市に「広島大学北京研究センター」を設置し、中国における教育研究拠点として機能している。平成6年に創立した国際協力研究科の開発科学専攻および教育文化専攻は、アジア・アフリカを中心とした途上国への国際協力分野の研究と教育を担っている。</p>			

機 関 名	広島大学	整理番号	a024
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>国際協力研究科は、平成6年の創立以降10年間で博士前期課程修了者617名、同後期修了者86名の研究者および高度専門職業人を輩出し、内外の大学をはじめ、国際協力機構、ユニタールなどの国際協力関係機関、海外進出の進む民間企業等で活躍している。外国人特別コースやJDS留学生無償支援事業等の制度を活用して海外より留学生を積極的に受け入れ、外国人留学生が修了生の47%を占めている。</p> <p>教育研究活動の柱を、「国際環境協力」、「国際平和協力」、「国際教育協力」として定め、文理融合した特徴あるカリキュラムをもとに新たな国際協力学の構築を目指している。具体的には、平成16～21年度の研究科中期目標・中期計画でインターンシップなどの実践的教育の充実を掲げている。</p> <p>平成15年度採択の21世紀COEプログラム「社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」、平成17年度から始まった連携融合事業「平和構築に向けた社会的能力の形成と国際協力のあり方に関する調査研究」、平成14年度から開始したIDEC-JICA連携プログラムなどを通じて、上記3つの柱を担う実践的教育を展開してきた。また、工学研究科との連携のもと現代的教育ニーズ取組支援プログラム「国境を超えるエンジニア」を実施している。</p> <p>このように国際協力の現場で活躍する職業人の育成には一定の成果を収めてきたものの、各種国際協力活動を支える法制度、経済開発、環境管理、技術開発、教育開発に関する理論や方法論の総合的研究を担う研究者の育成について十分な成果を挙げているとは言い難い現状にある。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>転換期を迎えたわが国の開発援助においては、国際協力の実務を支える理論の体系化や、政策立案手法および事業評価手法の開発などの学際的学問分野「国際協力学」の確立と研究者の育成が不可欠である。そこで、本事業では以下の教育目標を立て、3つの教育手法により達成を試みる。</p> <p><教育目標></p> <p>国際協力学を拓く実践的研究者(国際コーディネーター)の基礎となる複数の専門知識・技術およびデザイン能力を身に付けさせる。</p> <p><教育方法></p> <p>① 複数専門を習得させる分野横断型教育プログラムの試行 専門の異なる複数教員指導体制</p> <p>② 産官学連携海外インターンシップ制度による現地課題解決型研究の実践 海外の国際協力機関、民間企業等における6ヶ月間インターン</p> <p>③ 国際協力学のための教材開発と通信技術を活用したPBL教育の推進 特定のテーマに対して、小グループに分かれて作業を分担する「問題解決型授業」の授業形態 博士前期課程を基本とし、事前研究、現地研究(インターン)、事後研究により実施する。</p>			

機関名	広島大学	整理番号	a024
-----	------	------	------

6. 履修プロセスの概念図

図1 実践的 researcher 育成プログラムの履修プロセス

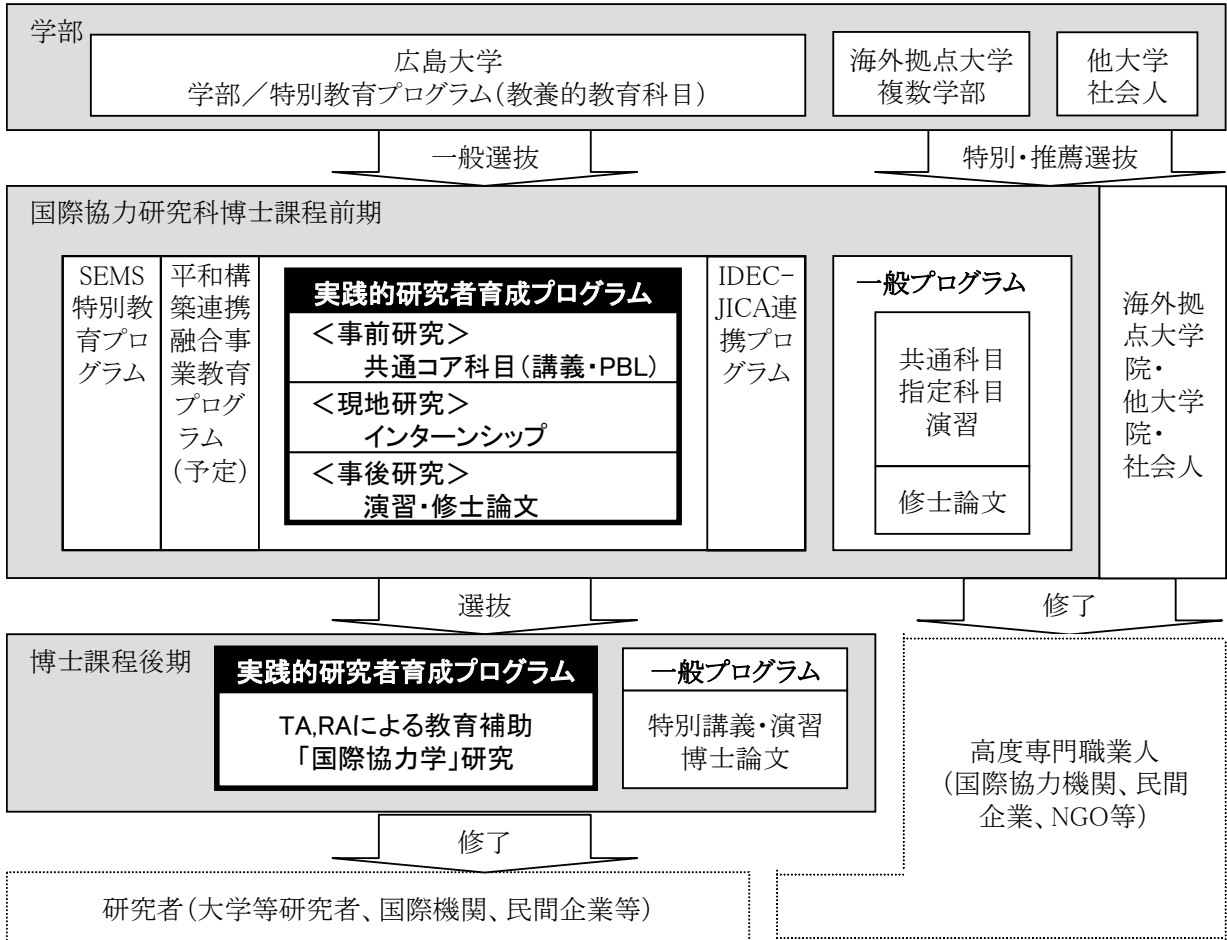


図2 実践的 researcher 育成プログラムの実施計画と特徴

年月	平成17年10月 ～平成18年3月	平成18年4月 ～9月	平成18年10月 ～平成19年3月	平成19年4月 ～9月	平成19年10月 ～平成20年3月	平成20年4月 ～9月
「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業による試行	事前研究 (コア科目) 受入機関開拓 入学試験	現地研究 (インターン) 受入機関開拓 教材開発	事後研究 (演習・論文) 教材開発 点検評価			
実践的 researcher 育成プログラム本格的実施		入学 研究テーマ決定 受入機関開拓 教材開発	事前研究 (コア科目) 受入機関開拓 入学試験	現地研究 (インターン) 受入機関開拓 教材開発	事後研究 (演習・論文) 教材開発 点検評価	

(補注)

実践的 researcher 育成プログラムは、平成18年4月の入学者から本格的に実施する。本「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業においては、受入機関の開拓、テキスト等教材開発、入学試験を行うとともに、平成17年度入学生の一部を対象に試行し、点検評価を行って、本格実施の体制を整える。

機 関 名	広島大学	整理番号	a024
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 488 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 533 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 916 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 965 1428 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 965 1428 1142">・ 「国際協力学を拓く実践的研究者」を養成するために、文理融合型デザイン能力の訓練を図る教育プログラムを構築するという趣旨は明確であり、意欲的で社会的意義もあり、評価できる。また、そのプロセスにおいても、専門の異なる複数教員指導体制や産官学連携海外インターンシップ制度、PBL(Problem-Based Learning)教育が導入されている点は、特色ある取組と言える。 <li data-bbox="172 1158 1034 1189">・ 研究者養成の側面から、教育プログラムの一層の工夫が望まれる。 			